

令和 6 年度(2024 年度)用

小学校国語科用

# 「新編 新しい国語」

# 年間指導計画作成資料

## 【3年】

令和 6 年 (2024 年) 1 月版

※単元ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

## 「新編 新しい国語」（第3学年）年間指導計画

### ■ 「評価の観点及びその趣旨」、「学年別の評価の観点の趣旨」の作成について

単元の指導計画・評価計画の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえた「評価の観点及びその趣旨」と、学年の目標を踏まえた「学年別の評価の観点の趣旨」を作成します。

なお「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科および学年の目標の(3)のうち、観点別学習状況の評価を通じて見取る部分をその内容として整理し、作成します。

### 小学校国語科の目標と「評価の観点及びその趣旨」

#### 小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第1 目標」

言葉による見方・考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようとする。	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### 評価の観点及びその趣旨 <小学校 国語>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

### 第3学年及び第4学年の目標と「評価の観点の趣旨」

#### 小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕 1 目標」

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようとする。	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 評価の観点の趣旨 <小学校 国語>第3学年及び第4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、幅広く読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

### ■評価規準

【知・技】…「知識・技能」の観点および学習指導要領との対応

【思・判・表】…「思考・判断・表現」の観点および学習指導要領との対応

【主】…「主体的に学習に取り組む態度」の観点

※◎は、重点指導事項に対応する評価規準を示す。

※学習指導要領との対応に示した記号は以下の通り。（「◇言語活動」においても同様）

〔知識及び技能〕(1)…言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)…情報の扱い方に関する事項 (3)…我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・表現力・判断力等〕 A…話すこと・聞くこと B…書くこと C…読むこと

## 単元の指導計画・評価計画案

3年

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
4	あなたのこと、教えて 2時間(話聞2) 教科書:上巻 P.14~15  既習事項との関連 互いの話に关心を持ち、相手の発言を受けて、話をつなぐ。(2上「はなしたい、ききたい、すきなこと」)	<p>●相手のことを知るために、好きなことや得意なことを質問しながら話し合うことができる。 △対話をする。</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の通しを持つ。 2 友達に、好きなことや得意なことを質問する。 3 聞いたことをクラスの皆さんに紹介する。 4 学んだことを振り返り、これから学習に生かそうという意識を高める。</p>	<p>【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や相違点に着目している。A(1)オ</p> <p>【主】 ・進んで相手のことを知るために質問しながら、学習の見通しを持って対話をしようとしている。</p>	
4	音読を聞き合おう すいせんのラッパ 6時間(読6) 教科書:上巻 P.16~28  【言葉の力】 様子をそぞろして音読する  既習事項との関連 お話をたしかめながら音読する。(2年「風のゆうびんやさん」)	<p>●場面や登場人物の様子を想像し、音読で表すことができる。 △物語を読んで想像したことを音読に表して伝え合う。C(2)イ</p> <p><b>見通す</b> 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 <b>取り組む</b> 2 「すいせんのラッパ」を読み、場面の出来事を確かめる。 3 登場人物の様子を想像して、音読の仕方を考える。 4 音読発表会をする。 <b>振り返る</b> 5 場面や人物の様子を想像して音読で表すとき、どのような工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。</p>	<p>【知・技】 ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】 ・進んで場面や登場人物の様子を想像し、学習の見通しを持って物語を音読しようとしている。</p>	<p>・場面や人物の様子を想像しながら音読を楽しむ。</p>
4	かん字をつかおう 1 1時間(書1) 教科書:上巻 P.29	<p>●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。</p> <p>1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、新しいクラスについて文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ</p> <p>【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。</p>	
4	図書館へ行こう 2時間(知技2) 教科書:上巻 P.30~33  既習事項との関連 学校の図書館の活用方法について理解する。(2年「としょかんへ行こう」)	<p>●図書館で知りたいことを調べるための資料の探し方を理解し、図書館を活用することができる。</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 知りたいことを調べるための本の探し方や日本十進分類法について理解する。 3 図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているかを確かめる。 4 学習を振り返り、図書館や資料の利用方法についての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得るために役立つことに気づいている。(3)オ</p> <p>【主】 ・進んで図書館での資料の探し方について理解し、学習の見通しを持って、図書館を活用しようとしている。</p>	<p>・生活の中の読書に生かす。 ・他教科等で調べ学習を行う際に、図書館を活用する。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
4	国語じてんの使い方 2時間(知技2) 教科書:上巻 P.36~37 ----- 既習事項との関連 百科事典や図鑑の使い方を知る(3 上「図書館へ行こう」)	●国語辞典の仕組みや使い方を理解し、学習に活用することができる。 ----- 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 国語辞典の仕組みを知る。 3 国語辞典の使い方を理解して、辞典を使って言葉を調べる。 4 学習を振り返り、国語辞典の使い方についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎辞書や事典の使い方を理解し、使っている。(2)イ 【主】 ・進んで国語辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って学習に活用しようとしている。	
4	メモを取りながら話を聞く 4時間(話聞4) 教科書:上巻 P.38~41 ----- 【言葉の力】 だいじなことを記録する ----- 既習事項との関連 だいじなことを落とさずに聞く(2年「はたらく人に話を聞く」)	●だいじなことを落とさないように気をつけながら、働く人の話を聞いてメモを取ることができます。 △話を聞いて情報を集める。A(2)イ ----- 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 話を聞く。 3 メモを比べて、話の聞き方を考える。 4 メモを取りながら話を聞く。 振り返る 5 どんなことに気をつけて話を聞いたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア ・必要な語句の書き留め方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持っている。A(1)エ 【主】 ・進んで大事なことを記録し、学習の見通しを持って話を聞いて情報を集めようとしている。	・社会科の時間に、町で働く人に話を聞く。
4 ～ 5	読んで考えたことをつたえ合おう 自然のかくし絵 8時間(読8) 教科書:上巻 P.42~52 ----- 【言葉の力】 だんらくの内ようをとらえる ----- 既習事項との関連 じゅんじょを考えて読む。(2年「たんぽぽ」)	●段落ごとの内容を確かめ、「自然のかくし絵」とはどういうことかを考えることができます。 △文章を読み、分かったことや考えたことを説明する。C(2)ア ----- 見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「自然のかくし絵」を読み、感想を持つ。 3 組み立てをもとに、書かれていることを捉える。 4 文章を読んで分かったことをまとめ、伝え合う。 振り返る 5 段落の内容を捉えながら読むことで、どのようなことを考えたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・段落の役割について理解している。(1)カ ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。C(1)ア ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。C(1)カ 【主】 ・進んで文章を読んで段落の内容を捉え、学習の見通しを持って分かったことや考えたことを説明しようとしている。	・本や資料で調べるときに、段落の内容を捉えながら読む。
5	漢字を使おう 2 1時間(書1) 教科書:上巻 P.53	●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。 ----- 1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、町の様子について文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。	【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	じょうほうのとびら 全体と中心  2時間(書2) 教科書:上巻P.54~55  既習事項との関連 物事にはさまざまな順序があることを理解する(2年「じゅんじょ」)	●情報の全体と中心について理解し、文や文章を書くことができる。 △情報の全体と中心に気をつけて文や文章を書く。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 話や文章など、情報の全体と中心について理解する。 3 課題に取り組み、伝えたいことの中心を考えながら、中心が分かるように文章を書く。 4 学習を振り返り、全体と中心についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作って、文章の構成を考えている。B(1)イ 【主】 ・進んで全体と中心について理解し、学習課題に沿って、文や文章を書こうとしている。	・発表や話し合いなどの場面で、伝えたいことの中心を明確にして述べる。
5 ~ 6	「わたし」の説明文を書こう  12時間(書12) 教科書:上巻P.56~61  【言葉の力】 中心を明らかにして書く  既習事項との関連 せつ明する文しようを書く(2年「くらべてつたえよう」)	●伝えたいことの中心を明らかにして、「『わたし』の説明文」を書くことができる。 △自分について説明する文章を書く。B(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 伝えたいことを書き出す。 3 中心を決めて、文章の組み立てを考える。 4 文章を書く。 5 文章を読み合う。 振り返る 6 相手に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・段落の役割について理解している。(1)カ ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。B(1)イ 【主】 ・進んで伝えたいことを明らかにして、学習の見通しを持って、自分について説明する文章を書こうとしている。	・社会科や理科の学習で、調べたことや考えたことを分かりやすく伝える。
6	漢字の表す意味  2時間(知技2) 教科書:上巻P.62~63  既習事項との関連 漢字の読み方と送り仮名について理解する(2下「かん字の読み方とおくりがな」)	●複数の意味を持つ漢字があることを知り、その意味の違いについて理解することができる。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 複数の意味を持つ漢字があることを知る。 3 いくつかの漢字について、どのような意味を持っているかを考える。 4 学習を振り返り、複数の意味を持つ漢字についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を読んだり、文や文章の中で使ったりしている。(1)エ 【主】 ・進んで複数の意味を持つ漢字について理解し、学習課題に沿って文や文章の中で使おうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	物語をみじかくまとめてしよう ワニのおじいさんのたから物 8時間(読8) 教科書:上巻P.64~76 【言葉の力】 あらすじをまとめる 既習事項との関連 場めんに分ける(2年「名前を見てちょうだい」)	<p>●登場人物や起こった出来事など、物語の内容を短くまとめて「紹介カード」を作ることができる。</p> <p>△物語を読み、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする。C(2)イ</p> <p>見通す</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。</li> <li>取り組む</li> <li>場面ごとに出来事を確かめ、あらすじをまとめる。</li> <li>登場人物の性格について考える。</li> <li>「紹介カード」を書き、物語の感想を伝え合う。</li> <li>振り返る</li> <li>あらすじをまとめるときにどのような工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段落の役割について理解している。(1)力</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C(1)エ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んであらすじをまとめ、学習の見通しを持って紹介カードを作り、物語の感想を伝え合おうとしている。</li> </ul>	・友達に本を紹介するとき、あらすじを分かりやすく伝える。
6	漢字を使おう 3 1時間(書1) 教科書:上巻P.77	<p>●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。</p> <p>△絵の中の言葉を使って文を書く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>単元の学習課題を確かめる。</li> <li>絵の中の言葉を使って、夏休みについて文を書く。</li> <li>学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ</li> </ul> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。</li> </ul>	
6	人物やものの様子を表す言葉 2時間(書2) 教科書:上巻P.78~79 既習事項との関連 語句の量を増し、語彙を豊かにする(2上「ものの名前をあらわすことば」、2下「人がすることをあらわすことば」)	<p>●人物や物の様子を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。</li> <li>人物やものの様子を表す言葉について理解する。</li> <li>人物やものの様子を表す言葉を比べ、意味の違いを考えて文を作る。</li> <li>学習を振り返り、人物やものの様子を表す言葉についての理解を確かめる。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <p>◎様子を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。B(1)エ</li> </ul> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで人物やものの様子を表す言葉について理解し、学習課題に沿って、意図に合った言葉を選んで文を書こうとしている。</li> </ul>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	心が動いたことを詩で表そう 6時間(書6) 教科書:上巻 P.80~83  【言葉の力】 表現をくふうして詩を作る  既習事項との関連 (3上「春の子ども」)	●表現を工夫しながら、詩を作ることができ る。 △心が動いたときのことについて詩を作る。 B(2)ウ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 詩を読む。 3 言葉を集める。 4 詩を書く。 5 書いた詩を読み合う。 振り返る 6 詩の言葉を集めるために、どのような工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで表現を工夫し、学習の見通しを持って、詩を作ろうとしている。	・文章を書いたり発表したりするとき、表現の仕方を工夫する。
6 ~ 7	ローマ字① 3時間(知技3) 教科書:上巻 P.84~89	●ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書くことができる。  1 単元の学習の見通しを持つ。 2 ローマ字の書き方の原則を理解する。 3 身の回りにあるものや自分の名前などをローマ字で書く。 4 学習を振り返り、ローマ字の書き方についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ 【主】 ・進んでローマ字について理解し、学習課題に沿って、ローマ字の単語を読みたり書いたりしようとしている。	
7	書き手のくふうを考えよう 「給食だより」を読みくらべよう 8時間(読8) 教科書:上巻 P.90~98  【言葉の力】 書き手のくふうを読み取る  既習事項との関連 説明の違いを考える(2年「どうぶつ園のかんばんとガイドブック」)	●伝えたいことを上手く伝えるために、書き手がどのような工夫をしているのかを考えることができる。 △二つの文章を読み比べて考えたことを伝え合う。C(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 二つの「給食だより」の文章を読み、書き手の伝えたいことを確かめる。 3 二つの文章を読み比べる。 4 二つの文章の、どちらを「給食だより」にするか考える。 振り返る 5 二つの文章の違いをどのような点から考えることができたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。C(1)ア ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ 【主】 ・進んで文章を読んで書き手の工夫を読み取り、学習の見通しを持って考えたことを伝え合おうとしている。	・身の回りにある宣伝文や広告の文章を読むとき、内容の組み合わせや説明に注意する。
7	三年生の本だな 一心の養分 2時間(知技2) 教科書:上巻 P.100~105	●幅広く読書に親しみ、自分の興味に応じた本を選んで読むことができる。  1 単元の学習の見通しをもつ。 2 P104~105 の読書体験文を読む。 3 「三年生の本だな」や P104~105 で紹介している本などを手がかりにして、自分が興味を持った本やこれまでに読んだことのない本を探して読む。	【知・技】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ 【主】 ・進んで幅広く読書に親しみ、今までの学習を生かして、多様な本を読もうとしている。	・生活の中の読書に生かす。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	詩を読もう 紙ひこうき 夕日がせなかをおしてくる 2時間(読2) 教科書:上巻 P.108~111  既習事項との関連 詩を声に出して読み、詩に描かれていることを具体的に想像しながら言葉の響きやリズムを楽しむ。(2年「いろいろなおとのあめ／空にぐうんと手をのぼせ」)	●詩を読んで感想や考えを持ち、豊かに音読することができる。 △詩を読み、考えたことを伝え合う。C(2)イ  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 詩の構成や表現に着目し、詩に描かれている様子や心情について考え、友達と話し合う。 3 友達と話し合ったことを基に、詩を音読する。 4 単元の学習を振り返り、どのような表現からどのようなことを感じたり考えたりしたかを確かめる。	【知・技】 <ul style="list-style-type: none"><li>・詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク</li></ul> 【思・判・表】 <ul style="list-style-type: none"><li>◎「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。C(1)オ</li></ul> 【主】 <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで詩を読んで感想や考えを持ち、学習の見通しを持って豊かに音読しようとしている。</li></ul>	
9	案内の手紙を書こう 5時間(書5) 教科書:上巻 P.112~115  【言葉の力】 だいじなことを手紙でつたえる  既習事項との関連 手紙を書く(2年「『ありがとう』をつたえよう」)	●だいじなことを手紙で伝えることができる。 △行事を案内する手紙を書く。B(2)イ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 手紙に書くことを確かめる。 3 手紙の下書きをする。 4 手紙を完成させる。 5 手紙を届ける。 振り返る 6 どんなことに気をつけて案内の手紙を書いたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 <ul style="list-style-type: none"><li>・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ</li></ul> 【思・判・表】 <ul style="list-style-type: none"><li>・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えている。B(1)イ</li></ul> ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。B(1)エ  【主】 <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで伝えたいことを考え、学習の見通しを持って、だいじなことを案内の手紙に書こうとしている。</li></ul>	・家のの人や地域の人に、運動会などの行事の案内をする。
9	慣用句を使おう 3時間(書3) 教科書:上巻 P.116~119  既習事項との関連 昔から伝わる言い回しを知る (2下「むかしからつたわる言い方」)	●慣用句について知り、意味や使い方を調べて、文を書くことができる。 △慣用句の意味を調べて、それを使った文を作る。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 慣用句について理解して、教科書に挙げられている慣用句の意味を国語辞典で調べて文を作る。 3 単元の学習を振り返り、慣用句について学んだことの理解を確かめる。	【知・技】 <ul style="list-style-type: none"><li>◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。(3)イ</li></ul> 【思・判・表】 <ul style="list-style-type: none"><li>・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</li></ul> 【主】 <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで慣用句について理解し、学習課題に沿って、意味や使い方を調べて文を書こうとしている。</li></ul>	
9	グループの合い言葉を決めよう 7時間(話聞7) 教科書:上巻 P.120~126  【言葉の力】 司会の進行にそって話し合う  既習事項との関連 言葉をつないで話し合う(2上「みんなで話し合おう」)	●司会の進行に沿ってグループで話し合い、来月の合い言葉を決めることができる。 △互いの考えを伝えるなどして、グループで話し合う。A(2)ウ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 自分の考えを持つ。 3 話し合いの目的と進め方を確かめる。 4 グループで話し合う。 振り返る 5 グループで考えをまとめるためにどのようなことに気をつけて話し合ったかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 <ul style="list-style-type: none"><li>・相手を見て話したり聞いたりとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ</li></ul> 【思・判・表】 <ul style="list-style-type: none"><li>◎「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。A(1)オ</li></ul> 【主】 <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで司会の進行に沿って、学習の見通しを持って互いの考えを伝えるなどして、グループで話し合おうとしている。</li></ul>	・グループで話し合うとき、進行に気をつけながら考えを一つにまとめる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	漢字を使おう 4  1時間(書1) 教科書:上巻P.127	●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。  1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、市場の様子について文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。	【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。	
9	主語とじゅつ語、つながってる?  2時間(書2) 教科書:上巻P.128~129  既習事項との関連 主語と述語との関係を理解する(2下「主語とじゅつ語」)	●主語と述語の関係を理解し、主語と述語を適切につなげて文を書くことができる。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 主語と述語の関係について理解する。 3 主語と述語が適切につながるように気をつけて文を書く。 4 学習を振り返り、主語と述語の関係についての理解を確かめる。	【知・技】 ◎主語と述語との関係について理解している。(1)カ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで主語と述語の関係について理解し、学習課題に沿って、主語と述語を適切につなげて文を書こうとしている。	
9 ~ 10	中心人物について考えたことをまとめよう サーカスのライオン  9時間(読9) 教科書:上巻P.130~148  【言葉の力】 中心人物の行動や気持ちをとらえる  既習事項との関連 人ぶつのようすをそぞうして読む(2年「ニヤーゴ」)	●中心人物の行動や気持ちを捉え、人物について考えたことを伝え合うことができる。 △物語を読み、中心人物について考えたことを文章にまとめて伝え合う。C(2)イ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「サーカスのライオン」を読み、中心人物の行動や様子を確かめる。 3 中心人物の気持ちを読み取る。 4 中心人物について考えたことを文章にまとめる。 振り返る 5 中心人粒はどんな人物だったか。中心人物についてどんなことを考え、伝え合ったかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えている。C(1)イ 【主】 ・進んで中心人物の行動や気持ちを捉え、学習の見通しを持って、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。	・中心人物が誰かを考えながら読み、読書を楽しむ。
10	漢字を使おう 5  1時間(書1) 教科書:上巻P.149	●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。  1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、秋の山について文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。	【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	きょうみを持ったことをしようかいしよう せっちゃんくざいの今と昔 8時間(読8) 教科書:下巻 P.8~18  【言葉の力】 要約する  既習事項との関連 大事な言葉を探しながら読む(2年「ビーバーの大工事」)	●興味を持ったことについて、伝えたいことの中心が分かるように要約して紹介することができる。 △文章を読み、分かったことや考えたことを説明する。C(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「せっちゃんくざいの今と昔」を読み、書かれていることを確かめる。 3 文章の中で、興味を持った内容を要約する。 4 要約した文章を紹介し、感想を伝え合う。 振り返る 5 伝えたいことを紹介するためにどんなところに気をつけて文章を要約したかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。C(1)ウ ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。C(1)カ 【主】 ・進んで文章を要約し、学習の見通しを持って、まとめたことを伝え合おうとしている。	・本や資料で調べたことをまとめるとき、大事な言葉や文に気をつけて要約する。
10	じょうほうのとびら 分ける  2時間(書2) 教科書:下巻 P.19~21  既習事項との関連 似ているものを比べて、同じところ、ちがうところを整理する方法を理解する(2年「同じところ、ちがうところ」)	●情報を見分類する方法を理解し、情報を分かりやすく整理することができる。 △複雑な情報を分類して整理する。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 情報を見分類する方法について理解する。 3 課題に取り組み、グループで出し合ったことを分類して整理する。 4 学習を振り返り、情報を分類して整理することについての理解を確かめる。	【知・技】 ○比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を分類して、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア 【主】 ・進んで情報を分類して整理することについて理解し、学習課題に沿って、情報を分かりやすく整理することができる。	・社会科の時間などでさまざまな考えを出し合うとき、共通点に着目するなどしながら情報を整理する。
10 ～ 11	道具のひみつをつたえよう  10時間(書10) 教科書:上巻 P.22~26  【言葉の力】 調べたことを整理する  既習事項との関連 しらべたことを分かりやすく書く(2年「どうぶつカード」を作ろう)	●調べたことを整理しながら、レポートを書くことができる。 △調べて分かったことを報告する文章を書く。B(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 調べるものを決める。 3 調べたことを整理する。 4 レポートの組み立てを考える。 5 レポートを書く。 振り返る 6 調べたことを整理するときどんな工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、使い方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を分類して、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作り、文章の構成を考えている。B(1)イ 【主】 ・進んで調べたことを整理して、学習の見通しを持って、レポートを書こうとしている。	・社会科で調べたことをレポートに書く。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	こそあど言葉 2時間(知技2) 教科書:下巻 P.28~29 ----- 既習事項との関連 「こそあど言葉」が指示するものを理解する(3 下「せっちやくざいの今と昔」)	<p>●こそあど言葉の役割について理解することができる。</p> <p>-----</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 「こそあど言葉」の働きや種類、指示するものなどについて理解する。 3 状況に応じた「こそあど言葉」を選んで、書いたり話したりする。 4 学習を振り返り、「こそあど言葉」についての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎指示する語句の役割について理解している。(1)力 【主】 ・進んで指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って話や文章の中で使おうとしている。</p>	
11	話したいな、すきな時間 6時間(話聞6) 教科書:下巻 P.30~33 ----- 【言葉の力】 話の中心がはっきりするよう に話す ----- 既習事項との関連 伝えたいことを選んで話す。 (2下「たからものをしようかい しよう」)	<p>●話の中心がはっきりするように材料を選んで、好きな時間についてみんなに話すことができる。 △自分のことについて話す。</p> <p>-----</p> <p>見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 話す材料を集める。 3 話すことを選んで、組み立てを考える。 4 みんなの前で話す。 振り返る 5 話の中心をはっきりさせるためにどんな工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。</p>	<p>【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。A(1)イ 【主】 ・進んで話の中心をはっきりさせるために工夫し、学習の見通しを持って自分のことについて話そうとしている。</p>	・学習発表会の思い出を家の人に話す。
11	漢字の読み方 3時間(知技3) 教科書:下巻 P.34~35 ----- 既習事項との関連 漢字の意味を理解する(3上「漢字の表す意味」)、送り仮名について理解する(2下「かん字の読み方とおくりがな」)	<p>●漢字の音や訓、送り仮名について理解することができる。</p> <p>-----</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 漢字の音訓や送り仮名について理解する。 3 漢字の音や訓を見分けたり、正しい送り仮名を付けたりする。 4 学習を振り返り、漢字の音訓や送り仮名についての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎第3学年までに配当されている漢字を読んだり、文や文章の中で使ったりしている。(1)エ 【主】 ・進んで、漢字の音訓や送り仮名などを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で使おうとしている。</p>	
11	ローマ字② 2時間(知技2) 教科書:下巻 P.36~37 ----- 既習事項との関連 ローマ字の書き方を理解する(3上「ローマ①」)	<p>●ローマ字を使ったコンピューター入力について理解することができる。</p> <p>-----</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 ローマ字を使ったコンピューター入力について理解する。 3 さまざまな言葉や短い文を入力して漢字や片仮名に変換する。 4 学習を振り返り、ローマ字を使ったコンピューター入力についての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ 【主】 ・進んでローマ字を使ったコンピューター入力について理解し、コンピューター入力に活用しようとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	想ぞうしたことをつたえ合 おう モチモチの木  9時間(読9) 教科書:下巻 P.38~56  【言葉の力】 人物のせいかくを想ぞうする  ----- 既習事項との関連 むかし話のおもしろさを見つ ける(2年「かさこじぞう」)	<p>●物語の登場人物について、地の文と会話文、それを手がかりに想像したことを伝え合うことができる。</p> <p>◇物語を読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする。C(2)イ</p> <p>-----</p> <p>見通す</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。</li> </ol> <p>取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「モチモチの木」を読み、物語の内容を捉える。</li> <li>登場人物の性格を想像する。</li> <li>登場人物について想像したことを伝え合う。</li> </ol> <p>振り返る</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>登場人物の性格についてどのようなことを想像し、友達と伝え合ったかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)才</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで登場人物の性格を想像し、学習の見通しを持って、考えたことなどを伝え合おうとしている。</li> </ul>	・人物の性格を想像しながら本を読み、読書を楽しむ。
12	漢字を使おう 6  1時間(書1) 教科書:上巻 P.57	<p>●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。</p> <p>◇絵の中の言葉を使って文を書く。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>単元の学習課題を確かめる。</li> <li>絵の中の言葉を使って、休みの日について文を書く。</li> <li>学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ</li> </ul> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。</li> </ul>	
12	人物の気持ちを表す言葉  2時間(書2) 教科書:下巻 P.58~59  ----- 既習事項との関連 語句の量を増し、語彙を豊かにする(2下「人がすること」あらわすことば」、3上「人物がすることを表す言葉」)	<p>●人物の気持ちを表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことができる。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。</li> <li>人物の気持ちを表す言葉について理解する。</li> <li>気持ちを表す言葉を集めたり、それらを使って文を書いたりする。</li> <li>学習を振り返り、人物の気持ちを表す言葉についての理解を確かめる。</li> </ol>	<p>【知・技】</p> <p>◎気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)才</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。B(1)エ</li> </ul> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで人物の気持ちを表す言葉について理解し、学習課題に沿って、意図に合った言葉を選んで文を書こうとしている。</li> </ul>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
12	いろいろな伝え方 4時間(書4) 教科書:下巻P.60~63  既習事項との関連 ローマ字による日本語の書き表し方を知る(3上「ローマ字①」、3下「ローマ字②」)	<p>●いろいろな伝達方法について知り、言葉で伝えるということについて考えたことを書くことができる。 ◇考えたことを文章にまとめる。</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 手話と点字、ピクトグラム、記号などによる伝達方法について理解する。 3 学習を振り返り、手話、点字、ピクトグラム、記号などによる伝達方法について考えたことを確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>【主】 ・進んでさまざまな伝達方法について理解し、学習課題に沿って、手話や点字、ピクトグラム、記号などを使った伝達について考えたことを文章に書こうとしている。</p>	
12	本から発見したことをつたえ合おう 4時間(読4) 教科書:下巻P.64~67  既習事項との関連 これまでに読んだ本を振り返る(3上「図書館へ行こう」3上「三年生の本だな」)	<p>●本から分かったことを伝え合う活動を通して、読書によって必要な知識や情報が得られることを知り、幅広く読書に親しむことができる。 ◇ノンフィクションや図鑑などを読み、分かったことを伝え合う。C(2)ウ</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 今までに読んだ本を振り返り、紹介したいノンフィクションや図鑑などを選ぶ。 3 「しようかいカード」を書く。 4 カードをもとに本を紹介し合う。 5 学習を振り返り、友達が紹介した本やP66~67で紹介している本などを手がかりにして、これから読書生活に生かそうという意識を高める。</p>	<p>【知・技】 ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得るために役立つことに気づいている。(3)オ</p> <p>【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。C(1)カ</p> <p>【主】 ・進んで幅広く読書に親しみ、今までの学習を生かして、ノンフィクションや図鑑などから分かったことを伝え合おうとしている。</p>	<p>・生活の中の読書に生かす。 ・他教科等の調べ学習に役立つ本を見つけて紹介したりする。</p>
12	漢字を使おう 7 1時間(書1) 教科書:下巻P.68	<p>●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 ◇絵の中の言葉を使って文を書く。</p> <p>1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、学校で学んでいることについて文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ</p> <p>【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。</p>	
1	俳句に親しもう 3時間(読3) 教科書:下巻P.70~75  既習事項との関連 神話や伝承に親しむ(2上「むかしばなし言い伝えられているお話を知ろう」)	<p>●俳句の言葉の響きやリズムに親しみ、音読したり暗唱したりすることができる。 ◇俳句を音読したり暗唱したりする。</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 五・七・五の音数や季語など、俳句の決まりについて知る。 3 俳句を声に出して読み、暗唱したり短冊に書いたりして親しむ。 4 単元の学習を振り返り、俳句について学んだことの理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。C(1)オ</p> <p>【主】 ・進んで俳句の言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、好きな俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1	生き物についての考えを深めよう カミツキガメは悪者か 9時間(読9) 教科書:下巻 P.76~90  【言葉の力】 筆者の考えをとらえる  既習事項との関連 知っていることと結びつけて読む(2年「あなたのやくわり」)	●筆者の考えとそれを支える理由や事例を読み、生き物について考えたことを伝え合うことができる。 △事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて伝え合う。C(2)ウ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「カミツキガメは悪者か」を読み、書かれていることを確かめる。 3 筆者の考えを捉える。 4 読んだことをもとに、生き物について考えたことを伝え合う。 振り返る 5 筆者の考えとそれを支える理由や事例からどのように自分の考えを深めたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。C(1)ア △「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。C(1)オ 【主】 ・進んで文章を読んで筆者の考えを捉え、学習の見通しを持って生き物について考えたことを伝え合おうとしている。	・筆者の考えをささえる理由や事例に注目して文章を読む。
1	漢字を使おう 8 1時間(書1) 教科書:下巻 P.91	●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。  1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、冬休みについて文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。	【知・技】 △第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。	
1	じょうほうのとびら 考え方と理由 2時間(書2) 教科書:P.92~93  既習事項との関連 順序に気をつけて書くことの大切さを理解する(2年「じゅんじょ」)	●考え方と理由について理解し、文や文章を書くことができる。 △考え方と理由を明確にして文や文章を書く。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 考えの理由を伝えることについて理解する。 3 課題に取り組み、考え方と理由のつながりが分かるように文章を書く。 4 学習を振り返り、考え方と理由についての理解を確かめる。	【知・技】 △考え方とそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考え方とそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1)ウ 【主】 ・進んで考え方と理由について理解し、学習課題に沿って、文や文章を書こうとしている。	・道徳の時間などに自分の考え方を相手に伝えるとき、理由といっしょに述べる。
1 ~ 2	クラスの思い出作りのために 8時間(書8) 教科書:下巻 P.94~99  【言葉の力】 考え方の理由を明らかにして書く  既習事項との関連 せつ明の文しょうを書く(2下「くらべてつたえよう」)	●自分の考え方とその理由を明らかにして、文章を書くことができる。 △自分の考え方とその理由を明らかにして文章を書く。B(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 自分の考え方をまとめる。 3 考えを深める。 4 文章の組み立てを考える。 5 文章を書く。 6 文章を読み合う。 振り返る 7 自分の考え方を伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・考え方とそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作り、文章の構成を考えている。B(1)イ △「書くこと」において、自分の考え方とそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1)ウ 【主】 ・進んで考え方の理由を明らかにし、学習の見通しを持って、自分の考え方を伝える文章を書こうとしている。	・グループで話し合うとき、自分の考え方を、理由といっしょに分かりやすく伝える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
2	道具のうつりかわりを説明しよう  10時間(話聞10) 教科書:下巻P.100~106  【言葉の力】 話の組み立てや話し方をくふうする  既習事項との関連 組み立てを考えて話す(2下「町で見つけたことを話そう」)	●話の組み立てや話し方を工夫して、道具の移り変わりについて調べたことを説明することができる。 △調べたことを話す。A(2)ア  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 説明する道具を決めて、調べる。 3 調べたことを整理する。 4 説明することを整理して、組み立てを考える。 5 説明の練習をする。 6 みんなの前で説明する。 振り返る 7 調べたことを分かりやすく報告するためにどのようなことに気をつけたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。A(1)イ ◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。A(1)ウ 【主】 ・進んで話の組み立てや話し方を工夫し、学習の見通しを持って、調べたことを説明しようとしている。	・社会科の学習で、調べたことや考えたことを、地域の人に分かりやすく発表する。
2	漢字を使おう 9  1時間(書1) 教科書:上巻P.107	●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。  1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、学校で学んでいることについて文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。	【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。	
2	くわしく表す言葉  2時間(知技2) 教科書:下巻P.108~109  既習事項との関連 様子を表す言葉を理解する(3上「人物やものの様子を表す言葉」)	●詳しく表す言葉について理解して、文中の詳しく表す言葉を捉えることができる。  1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 詳しく表す言葉について理解する。 3 詳しく表す言葉を使って文を書く。 4 学習を振り返り、詳しく表す言葉について理解したことを確認する。	【知・技】 ◎修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ 【主】 ・進んで修飾と被修飾の関係について理解し、学習課題に沿って、文中の修飾・被修飾の関係を捉えようとしている。	
2~3	物語のしきけのおもしろさをつたえ合おう ゆうすげ村の小さな旅館一ウサギのダイコン  9時間(読9) 教科書:下巻P.110~126  【言葉の力】 物語のしきけを見つける  既習事項との関連 自分と比べて読む(2年「お手紙」)	●物語の仕掛けを探し、物語で起きた出来事とどうつながっているか考えることができる。 △物語を読み、物語の仕掛けについて考えたことを伝え合う。C(2)イ  見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 「ゆうすげ村の小さな旅館一ウサギのダイコン」を読み、場面ごとに出来事を確かめる。 3 登場人物について、どのような人物かを考える。 4 物語の仕掛けについて考えたことを伝え合う。 振り返る 5 物語にはどんな仕掛けがあったか、それは物語の中でどのような役割をしていたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これからの学習に生かそうという意識を高める。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。C(1)オ ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。C(1)カ 【主】 ・進んで物語の仕掛けを見つけ、考えたことを伝え合おうとしている。	・仕掛けを探しながら物語を読み、読書を楽しむ。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／△言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
3	漢字を使おう 10  1時間(書1) 教科書:上巻 P.127	<p>●2年生までに習った漢字を使って、文を書くことができる。 △絵の中の言葉を使って文を書く。</p> <p>1 単元の学習課題を確かめる。 2 絵の中の言葉を使って、旅行について文を書く。 3 学習を振り返り、2年生までに習った漢字を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文を整えている。B(1)エ 【主】 ・進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って文を書こうとしている。</p>	
3	漢字の組み立てと意味  2時間(知技2) 教科書:下巻 P.128~129  既習事項との関連 漢字の意味を理解する (3上 「漢字の表す意味」)	<p>●漢字が部首と他の部分とによって構成されていることを理解することができる。</p> <p>1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 2 漢字が部首と他の部分とによって構成されていることを理解する。 3 同じ部首の漢字を集めて、部首の意味について考える。 4 学習を振り返り、漢字の部首についての理解を確かめる。</p>	<p>【知・技】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ 【主】 ・進んで漢字の部首について理解し、学習課題に沿って、部首と漢字の意味について考えようとしている。</p>	
3	わたしのベストブック  6時間(書6) 教科書:下巻 P.130~133  【言葉の力】 文章のよいところを伝え合う  既習事項との関連 文章のよいところを見つける (3年「ことばのアルバム」)	<p>●文章のよさを伝え合いながら、「わたしのベストブック」を作ることができる。 △友達と文章を読み合って賞状を贈り合い、「わたしのベストブック」にまとめる。</p> <p>見通す 1 既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。 取り組む 2 書いた文章を読み返す。 3 賞状を書く。 4 「わたしのベストブック」を作る。 振り返る 5 自分や友達の文章にはどんな工夫があつたかを振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめ、これから学習に生かそうという意識を高める。</p>	<p>【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ◎「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。B(1)オ 【主】 ・進んで自分や友達の文章のよいところを見つけて伝え合い、学習の見通しを持って「わたしのベストブック」を作ろうとしている。</p>	<p>・友達の発表を聞いて、よいと思ったところを伝える。</p>